

〔水鏡仁德〕五十五年と申しに、武内の大臣うせにき、二百八十にぞなり給ひし、六代のみかどの御うしろみをして、大臣の位にて、二百四十四年ぞおはせし。

〔扶桑略記仁德〕五十五年、大臣武内宿禰春秋二百八十二歳薨、歷六代朝二百卅四年也。

〔帝王編年記仁德〕七十八年庚寅、大臣武内宿禰薨、年未詳、一説云、景行天皇九年己亥生、自爾以降至于今歳、經六帝景行成務仲哀神功應神仁德、曆年三百一十二歳矣、紀朝臣氏久云、武内宿禰大臣者、六代帝爲大臣也、遂不知其死所者。

〔宋史外國〕九十一〕日本國

應神天皇略○中有大臣號紀武内、年三百七歳、

〔海東諸國記〕日本國紀略○中

仁德天皇略○中 五十五年丁卯、大臣武内死、年三百四十、歷任六朝、

〔一宵話〕尾張濱主

五雜俎に、長壽人を列載せし其最第一人は、日本紀武内三百七歳也、さしも廣き唐にても此人より上なるは多くなし、さて此を日本紀にと讀みて、東鑑の唐土へ渡れると同じやうに、此書紀もはやく彼國へ渡りしとおもふ人あれど、此は宋史に日本の大臣紀の武内とあるを、謝氏の引けるなれば、さは讀まじき事也、此武内内大臣は紀伊國に生れ給ひしから、子孫紀を姓とし、大和の内の大野に住まれしから、内大臣と稱せしならん、仁德天皇の御末まで長命し、六代の天皇にかへられたり、扱壽は公卿補任には三百十二歳、愚管抄には三百八拾歳、或は東國よりの歸るさ、甲斐の國の山へ隠れられしとも、因幡國金龜へかくれられしともありて、さだかにはしられぬよしなり、むかし人の言に、賢相になられずば神仙にならんといひしが、此大臣は二つながら兼られていとめでたし、